

令和5年度 児童アンケート 調査項目

- ①私は、学校が楽しい。
- ②私は、学校の決まりを守っている。
- ③私には、困ったことがあったら相談できる友だちがいる。
- ④私には、困ったことがあったら相談できる先生がいる。
- ⑤私は、係や当番の仕事をやっている。
- ⑥私は、無言清掃をやっている。
- ⑦私は、下駄箱のくつをそろえている。
- ⑧私は、家の人に学校のようすを話している。
- ⑨私は、学校の授業が分かる。
- ⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。
- ⑪私は、授業中に自分の考えを伝えている。
- ⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。
- ⑬私は、本を読んでいる。
- ⑭私は、自分からあいさつしている。
- ⑮私は、早寝早起きをしている。
- ⑯私は、朝ご飯を食べて登校している。
- ⑰私は、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。
- ⑱私の家では携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがある。

令和5年度 児童アンケート〔前期〕考察

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

回答数は187名で、在籍児童数203名に対して92%の回答率である。

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は16項目中15項目であり、昨年度よりも1項目上回っている。さらに、そのうちの11項目が90%以上の肯定的評価であり、こちらも昨年度を2項目上回っている。また、7項目で昨年度を3%上回り、9%上回った項目も2項目あった。これらことから、全体的には昨年度までの良好な結果がさらに向上しているといえる。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は1項目で、昨年度よりも1項目減っている。しかし、昨年度を3%下回った項目が2項目あり、改善の手立てが必要である。

〔3〕結果の考察

【学校生活】（項目①～④）に関わって

すべての項目で90%以上の肯定的評価であり、昨年度を3%以上上回っている。特に、「③相談できる友だち」は9.2%、「④相談できる先生」は10.3%上回っている。コロナ禍で友だちや教師との関わる機会が少なくなっていたが、学校で友だちや教師との関わりを取り戻し始めている様子がうかがえる。

ただ、学校生活において学習面や生活面等での悩みは、誰しものが持ち合わせているものである。相談できる相手の存在は安心感を生むことから、否定的な評価をした児童には迅速に対応するとともに、全ての児童が安心した学校生活を送るためにも目配りや気配りを欠かさないように努めていく必要がある。

【確かな学力】（項目⑨～⑬）に関わって

「⑨授業が分かる」の項目の肯定的評価が昨年度を4.3%上回っている。この結果は、「⑩考えをもって、人の話を聞く」や「⑫家に帰って勉強」が昨年度に引き続いて90%を超えていることや、昨年度の課題であった「⑩授業中に考えを伝える」の項目が4.4%向上していることからもたらされていると考えられる。今後も、家庭学習のさらなる定着と、思考力を働かせる過程を大事にした授業を継続させたい。しかし、向上したとはいえ、「⑩授業中に考えを伝える」の項目は否定的評価が24.6%と依然高い。これは“恥ずかしい”“発表の仕方が分からない”等いくつかの理由が考えられるが、「主体的・対話的な深い学び」や校内研究のテーマとして取り組んでいる『学び合い』の定着を目指した授業改善を行い、児童の表現力をさらに向上させていく必要がある。

「⑫家に帰って勉強」の結果は、92.5%と肯定的評価がさらに向上し、昨年度に引き続き家庭学習の定着が見られる。日々の宿題や自主学習の取組が基礎基本を身につけ、学習意欲を向上させている。また家庭の協力体制も高評価につながり、今後も継続して家庭と連携してさらなる学力の向上を図りたい。

ただ、「⑬本を読む」の項目では昨年度を5.8%下回っている。コロナ禍から日常の生活を取り戻しつつあるなかで他者との関わりが増えていることに起因するとも考えられるが、読書の面白さや重要性について、さらに読書教育を充実させていくことが求められる。

【豊かな心】(項目⑤⑥⑦⑭)に関わって

楡形地区小中学校が小中一貫教育として取り組んでいる「⑥無言清掃」「⑦靴そろえ」の項目は、残念ながら、ともに若干数値を下げた。特に、「⑥無言清掃」の項目では昨年度を4.7%も下回っていることから、児童会を中心とした手立てを講じる必要がある。これらの項目は、楡形地区の児童生徒全員が当たり前のこととして習慣化させていくために、本校でも引き続き力を入れて取り組みたい。

「⑭あいさつ」の項目は、肯定的評価が92.5%と高い結果を得ている。日頃から、児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の定期的な取組が、全校児童に浸透しているからと考えられるが、運動中でなくても自分からあいさつができる児童を目指してさらに指導を重ねたい。

【健やかな体】(項目⑮⑯)に関わって

「⑮早寝早起き」の肯定的評価は82.9%と満足できる状態ではあるが、17.1%の否定的評価の児童は、十分な睡眠がとれていないと考えられ不安が残る。

睡眠は脳や体、また心の成長に大きく影響する。睡眠不足の原因の一つに、情報端末の普及が考えられる。ゲームやYouTube等は始めたらなかなかやめることができず、それに触れている時間は多くなり、睡眠不足は必然的であろう。言語発達の遅れや集中力の低下、情緒面の不安定、肥満の誘発等たくさんのリスクが報告されている。早寝早起きは家庭での生活のあり方が大きく影響しているので、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発が重要になってくる。「早寝・早起き・朝ごはん」を継続して呼びかけていきたい。

【その他】

[項目⑰⑱に関わって]

昨年度に引き続き児童については“携帯電話”“スマートフォン”についての所有率を調査した。

1年生:31.0%, 2年生:37.5%, 3年生:35.4%, 4年生:57.6%, 5年生:58.3%, 6年生:41.5%である。全体では42.8%の所有率で、昨年度を4.1%上回った。所有している中で、ルールが決められている率は83.8%であり、前年度を7.3%上回った。これは、便利な情報端末の使い方を間違えると、自らの成長を損ない、また大きなトラブルに巻き込まれてしまうという認識が高まり、情報モラルの重要性を意識する家庭が増えてきた結果であろう。これからも、学習用タブレット端末の効果的な使い方と併せ、学校と家庭が連携して情報モラルの徹底を図っていきたい。

令和5年度 職員による学校評価 調査項目

- ①あなたは、学校教育目標に基づき、学校や児童・生徒の実態に即した教育実践を行っていますか。
- ②あなたは、P（計画）D（実行）C（確認）A（改善）のサイクルで、教育活動の向上に努めていますか。
- ③あなたは、教職員間において報告・連絡・相談に努め、協力的な取り組みをしていますか。
- ④あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。
- ⑤あなたは、校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいますか。
- ⑥あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。
- ⑦あなたは、諸会議に積極的に参加していますか。
- ⑧あなたは、教材・教具（ICT機器を含む）を効果的に活用する授業を行っていますか。
- ⑨あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。
- ⑩あなたは、授業の始めに児童・生徒に授業のめあてを示していますか。
- ⑪あなたは、授業や単元の終わりに、児童・生徒がめあてを達成しているかを評価していますか。
- ⑫あなたは、児童・生徒理解のために、日頃から様々な方法でコミュニケーションを図っていますか。
- ⑬あなたは、諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応に努めていますか。
- ⑭あなたは、児童・生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。
- ⑮あなたは、児童・生徒が進んであいさつするよう指導していますか。
- ⑯あなたは、特別支援教育の理念を理解し、個に応じた関りをしていますか。
- ⑰あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。
- ⑱あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。
- ⑲あなたは、対話を意識した学び合いを授業に取り入れていますか。
- ⑳あなたは、深い学びになるよう、課題や発問の工夫をしていますか。
- ㉑あなたは、Simpleプログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。
- ㉒あなたは働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか。

令和5年度 職員による学校評価〔前期〕考察

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、22項目中19項目であり、そのうち、14項目で90%以上の肯定的評価であった。また【A】【B】の合計が100%であった項目も10項目であるが、昨年度の13項目よりも下回る結果となった。

【C】【D】の否定的評価に目を向けると、合計が20%を超えている項目が3つという結果であった。その中には30%を超えている項目もあり、課題として真摯に受け止めたい。

これらを総合的に判断すると、全体的には良好な状況が継続しているものの、昨年度と比較して改善すべき内容が増えたと言える。

〔3〕結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】（項目①～⑦）に関わって

項目①から⑦のうち、【A】【B】100%の肯定的評価を得た項目は5つあり、その内、R4前期の結果と引き続き同じく100%であった項目は4つあった。この結果は、職員全員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かって取り組んでいる表れである。また、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているのは、校長を中心とした組織が十分に確立しているとも言える。しかし、「③報告・連絡・相談」と「⑥校内研」の2項目で【C】評価があることにも注目したい。教職員間の情報共有をさらに密なものにして、世代間のそれぞれのよさが生かされる学校を目指すとともに、校内研究をさらに活性化させて、教師も学び合える学校を目指したい。

【学習指導】（項目⑧～⑪）に関わって

「⑧ICT機器の活用」「⑨読書活動の充実」「⑩めあての提示」「⑪めあての評価」の項目は、全て児童の学力向上に直接関わるとても重要なものである。このうち、⑧⑨⑩の項目において、『満足できる状態』という結果を考えると、先生方は日々の授業実践をとても大切に考え、児童に基礎基本の確実な定着、そして、内容の理解が深まるように努めていることが分かる。しかし、めあてに関わる⑩⑪の2項目については、ともに昨年度の結果を下回り、特に⑪では『改善の余地がある状態』となっている。今後も、授業過程におけるめあての重要性を確認しながら学習指導にあたりたい。

⑧については、1人1台端末が整備され、全児童が情報端末に触れる機会が格段に増えてきている

ものの、【D】評価と回答した職員もいたことを考えると、職員の得意不得意が児童の活用能力に影響を及ぼす可能性が懸念される。今後も、校内研究やICT研修などを積極的にを行い、教員のICT活用能力の向上を継続して努めるよう心がけたい。⑨について、読書は知識を得、視野を広め、また心を豊かにし、学力向上にもつながるので、朝読書や定期的な読書週間の取組、家庭への啓蒙を行いながら、継続して読書の充実に努めたい。

【生徒指導・生活指導】(項目⑫～⑯)に関わって

「生徒指導」「生活指導」に関する5つの項目は全て【A】【B】評価100%という結果である。これは、日々先生方が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけ、児童理解に努めている成果である。特に、「⑬諸問題の早期発見・早期対応」と「⑯個に応じた関わり」の2項目では昨年度に比べてA評価の割合が増加しており、いじめや不登校への問題意識や特別支援教育の理念を踏まえた個への関わりが充実していることを表している。しかし、この2項目は本校の課題でもあるので、さらに専門性を高められるよう全職員で努めていきたい。とりわけ様々な特性をもつ児童への対応は、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。早急に結果を求めず、長期的な視点で支援を継続するとともに、専門性をさらに高めるための手段として、専門家の要請、研修、ケース会議などを充実させていきたい。

【保護者・地域との連携】(項目⑰⑱)に関わって

「⑰情報の発信」は【A】【B】評価100%と肯定率が高く、昨年度の結果を上回っている。しかし「⑱地域人材・施設の活用」については昨年度同様31.6%と否定率が高く、改善していかななくてはならない項目となった。やはりコロナ禍において、これまで関わってくださった地域の方々との関係が途絶えてしまい、職員の入替わりとともに、地域人材の周知が課題となっている。今後も保護者や地域との連携をさらに工夫していく必要がある。

【小中一貫教育】(項目⑲～㉑)に関わって

項目⑲～㉑は“橿形中学校区小中一貫校”として関わりがある項目である。それぞれの学校が特色を生かしながらも、一貫校として共通の理解を図りながら、児童生徒を育成することをねらいとしているので、今回も学校評価の評価項目の中に統一項目として含まれている。

項目⑲と㉑は新学習指導要領でも掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現である。2つの項目とも【A】【B】評価が昨年度を下回る結果となった。特に、「⑲『学び合い』」の項目では、【C】評価が28.6%と昨年度を大幅に下回り、『学び合い』を対話に発展させていく難しさが浮き彫りとなっている。今年度の校内研究でもテーマになっているので、職員一人一人の意識をさらに高め、対話でのルール作りやICTの活用、ワークシート、ホワイトボードなど実践を積み重ねることで、対話や深い学びにつなげていきたい。

「Simpleプログラム」も【A】【B】評価84.6%という高い結果であったものの、昨年度を6.3%下

回った。「Simpleプログラム」は、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものである。今後も学級担任自らが相互に学び合い高め合いながら、互いに認め合うことができる児童の集団を育て、多くの学習で活用できるようにしたい。

最後の項目「㊸働き方改革」は昨年度から追加された項目である。結果は【A】【B】評価 89.5%、【C】評価 10.5%であり、昨年度を上回る結果となった。「働き方改革」「多忙化解消」は簡単には改善できないが、あらゆる教育活動において効率化できないか考えながら取り組み、そのための職員間のコミュニケーションや確実な業務の引継ぎが重要となるだろう。